

平成30年度津別町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業（地方創生事業）の実施結果について

1. 地方創生推進交付金実績

- ・「コンパクトシティの推進：津別町の特徴を生かした地産地消による域内経済循環と地場産品の外消で稼ぐ持続可能なエコタウンの確立」事業

事業名	内容
<p>まちなか再生とまちの賑わい創出事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 <p>平成27年度からのまちなか再生に係る継続事業。平成30年度のまちづくり会社設立、特産品の企画・販売などを行う。</p> ・事業実績 <ul style="list-style-type: none"> (1) まちづくり会社統括マネージャー選考 <p>公開審査会、面接を実施し松林尚史氏を選考、8月1日着任</p> (2) 人材採用 <p>山本洋子氏をサブマネージャーとして採用、9月3日着任 順次、スタッフの採用を実施した。</p> (3) まちづくり会社設立 <p>8月より特産品事業者へのヒアリングを順次実施 9月に上士幌町役場、ふらのまちづくり株式会社へ視察。 11月の議会全員協議会にて松林統括マネージャーより事業計画案を説明。 1月の議会全員協議会にて会社設立に向けた流れや、定款についての内容説明。 1月に町民向け事業計画説明会を計4回開催し、延べ100名が参加。 2月に中央公民館にてまちづくり会社の事業計画説明会を実施。前段で藻谷浩介氏の基調講演も実施し、延べ161名が参加。 2月末日まで出資金の募集を実施し、3月に出資申込者への会社設立に向けた説明会を開催、10名が参加。 3月の議会全員協議会にて創立総会議案等の内容を説明。 3月22日に創立総会を実施し、出席者38名、書面表決11名、代理人17名が出席。すべての議案が承認された。 3月28日付けで北海道つべつまちづくり株式会社（資本金40,250千円（805株））設立登記完了。</p> (4) トライアルマルシェ（フードホール）の実施 <p>2月23日、24日の2日間、さんさん館で開催 来場者2,700名（うち7割が町外者）が来場。</p>

<p>障がい者・生活困窮者の働く場の創出事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 <ul style="list-style-type: none"> 障がい者や引きこもり者を含めた生活困窮者が安心して暮らせる環境整備を図る。 ・事業実績 <ul style="list-style-type: none"> (1) 「居場所」について <ul style="list-style-type: none"> 社協と役場保健福祉課による運営協議会を設置し、維持・運営について検討を進めた。 現在は臨時支援員を配置し、常設ではなく予約制の開設、定期利用者の利用日は必ず開設することとして継続。 (株)びーとから協力支援として、前年から引き続き山田賢明氏による町民等への障がい等の認識を深める支援などを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・さんさん館にて毎月講演ライブ（12回、延べ355名参加） ・道東テレビとの協力によるネット配信（毎月1動画） ・社会福祉協議会とひきこもり者宅へカウンセリング訪問 (2) 「就労の場づくり」について <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会にて農園（社協アグリ）での農業就労体験を継続実施。 (株)びーとにて、就労支援としての仕事や、地域の困りごとなどの情報収集を行った。
<p>再生可能エネルギーの利活用推進事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 <ul style="list-style-type: none"> 林地残材等を活用した再生可能エネルギーの導入推進 ・事業実績 <ul style="list-style-type: none"> (1) 再生可能エネルギー導入可能性調査 <ul style="list-style-type: none"> 本調査業務では、複合庁舎等への熱供給事業の可能性について業務委託にて実施する計画であったが、熱供給先として想定される公共施設へのセンター方式による熱供給について、各施設建設計画の実行性と最終施設建設まで長期間に及ぶため、個別供給方式での方向性となったことから導入可能性調査業務を実施しないこととした。 (2) マネジメントセンター発足・運営 <ul style="list-style-type: none"> これまで、津別町森林バイオマス利用推進協議会において、再エネのマネジメント機能を司る新会社の設立について協議、検討を実施していたが、新会社の設立については、既存の会社にて本事業を担うことがより理想的であるという方向となった。

・「津別とつながる地域拠点創出による移住・起業・エリアリノベーション誘発プロジェクト」事業

事業名	内容
移住・起業・空き家等利活用促進事業	<p>・事業概要</p> <p>道東地域を巻き込んだ際立ったプロモーションを引き続き行い、町内外の人材を巻き込みながら空き家等をリノベーションし、人的資本や情報が集積する場所としての「地域融合型ゲストハウス」「起業支援型コワーキングスペース」を立ち上げる。</p> <p>・事業実績</p> <p>(1) 地域融合型ゲストハウスの立ち上げ</p> <p>前年に決まったパイロット事業者、協力事業者と立ち上げに向けて、物件・事業計画について交渉・検討を行った。物件確保について、交渉が難航したことから今年度は事業を見送ることとしたが、新たな物件が条件面で合致しそうな目処が立ってきたことから、新年度早々にも事業着手を行う方向で進んでいる。</p> <p>(2) 起業支援型コワーキングスペースの立ち上げ</p> <p>7月末に物件の契約が完了し、9月中旬から約半年間に渡りリノベーションにより施設改修を実施。 2月にオープニングイベントを実施。</p> <p>(3) エリアリノベーションの促進</p> <p>空き家利活用の連鎖を生み出すためのプロモーション、ワークショップを通じたリノベーションのノウハウ伝達等の仕組み構築を検討した。 コワーキングスペースのリノベーション期間中に全24回の一般参加型のワークショップを開催し、空き家リノベーションのノウハウを伝達。 交流人口、関係人口拡大に向けた取り組みとして移住希望者・起業希望者とのネットワークを構築するため、町外でのPRイベント等へ参加。</p> <p>(4) まちづくり会社への地域コーディネーター機能の設置</p> <p>関係人口の拡大を推進するため、地域コーディネーター（移住コンシェルジュ）として地域おこし協力隊の募集を行ったが、応募は1名のみで面接の結果、採用に至らなかった。次年度も継続して上記人材の募集を行っていく予定。 津別町のファンに対して継続的に情報発信を行っていくため、会員登録機能を有した津別町ファンクラブサイトを立ち上げ、450名以上が会員登録を行っている。</p> <p>(5) ホームページ整備</p> <p>町内の空き家情報を紹介するホームページ「空き家バンク」をリニューアルし、10月1日に公開。 津別町への移住・定住を検討している人を対象にしたホームページ「チャレンジツベツ」を制作。</p>

2. 単独事業

・大学生との連携によるまちづくり事業

事業名	内容
大学生との連携によるまちづくり事業	<ul style="list-style-type: none">・事業概要 北海道大学の学生が来町し、地方創生についての現地調査と発表会を実施。津別高校との高大連携事業を中心に取り組みを実施し、26名の学生が活動に参画した。 各班共通の最終成果発表会を12月に中央公民館で実施。・事業実績<ul style="list-style-type: none">(1) 北大マルシェ班（高校生と大学生との連携事業） 合同ワークショップにて、販売する特産品や店名、店舗デザインの決定、生産者ヒアリング等を実施した後に、高校生による北海道大学への訪問でキャンパス見学や北大マルシェ日曜市での特産品販売を実施。(2) 若者議会班（高校生と大学生との連携事業） 合同ワークショップにて「多世代交流を促進するためには」、「高校生が考える津別の課題と改善方法」について検討した。 さらに、高校生による北海道大学への訪問でキャンパス見学や提案内容のまとめ、発表資料の作成と発表練習を実施。(3) 津別留学班（大学生による単独事業） 子ども向けの体験型教育旅行観光ツアーの企画を目的に町内10事業者のヒアリングや町内見学を実施。 SNSを活用したアンケート調査や有識者ヒアリング等を実施し、政策の磨き上げを行った。